

患者さまと井上眼科病院をつなぐ「眼」の情報ペーパー

INOUEYE EYE

Note

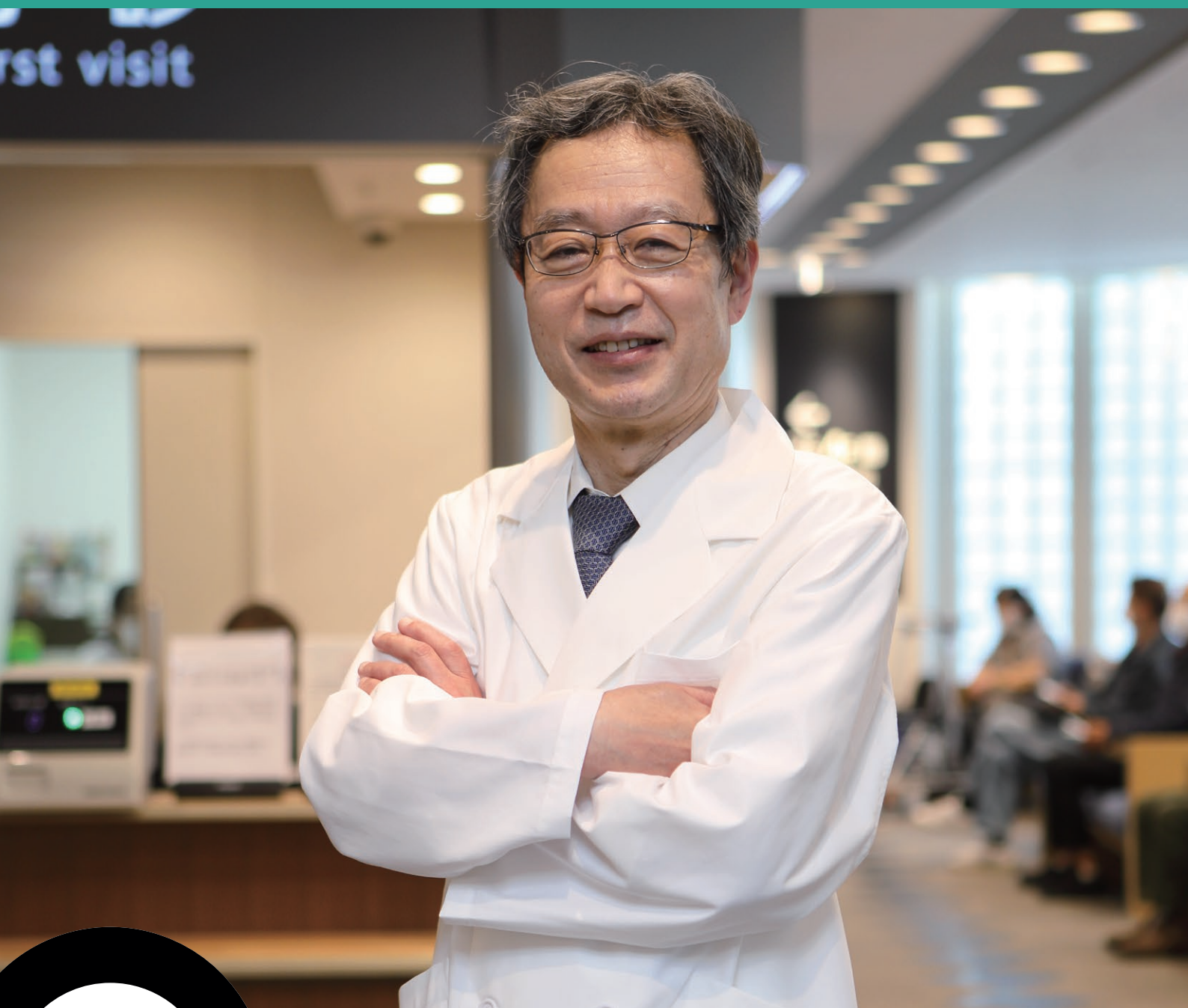
井上式！よくわかる目の病気事典

正しく知る「糖尿病網膜症」－早期発見で進行を食い止める！

先生の、見つめてきたもの〈vol.10〉 溝田院長
札幌・日帰り硝子体手術を開始

2023
SUMMER
vol. 125

ご自由にお持ちください。



井上眼科だより



医療法人社団 済安堂
井上眼科病院グループ
INOUEYE EYE HOSPITAL GROUP

ホームページからご覧いただけます。

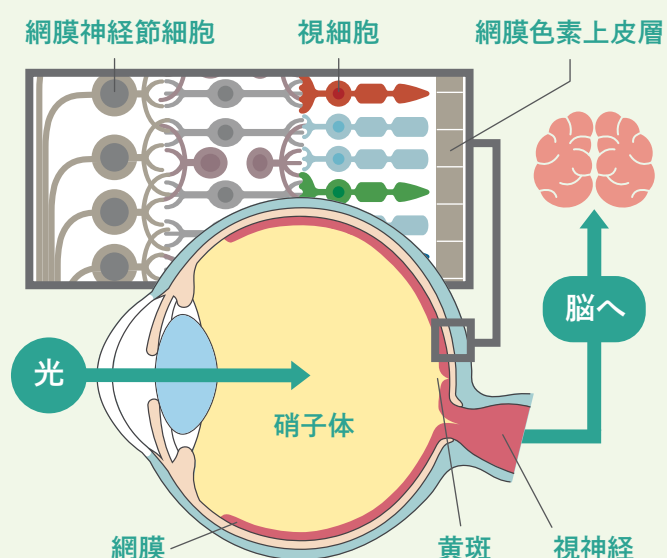
井上式！よくわかる目の病気事典

正しく知る「糖尿病網膜症」－早期発見で進行を食い止める！

現在、40歳以上の3人に1人は糖尿病もしくは糖尿病予備軍と言われ、厚生労働省の調査では2,000万人に上ると言われています。「糖尿病網膜症」は、腎症、神経障害と並んで、糖尿病の三大合併症のひとつです。糖尿病になってから数年～10年以上経過して発症すると言われ、かなり進行するまで自覚症状がないことが特徴です。今回は、視神経・網膜が専門の溝田新院長の監修のもと、糖尿病網膜症について詳しく解説します。

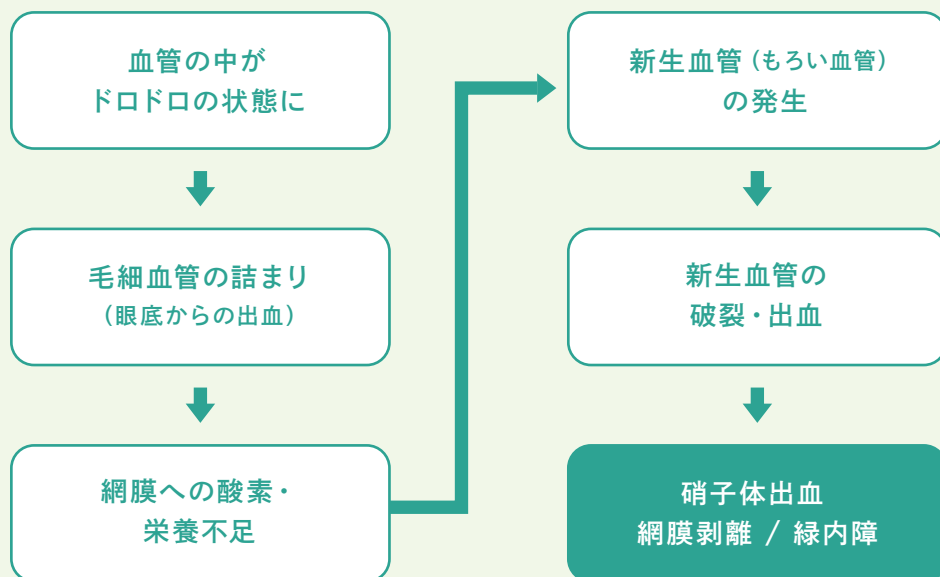
「網膜」はどこにあるの？

「網膜」はカメラに例えるとフィルムの役目を果たす部位で、光を受感する細胞である光受容体が存在しています。この細胞が外界からの光を電気信号に変換し、視神経を通じて視覚情報を脳に伝える大切な役目をしています。特に、網膜の中央にある直径 1.5～2 ミリほどの「黄斑（おうはん）」という部分で細かいものを識別したり、色を見分ける役割を担っています。こうした網膜には、光受容体細胞やその他の細胞に酸素や栄養を供給するため、非常に多くの毛細血管が存在しています。



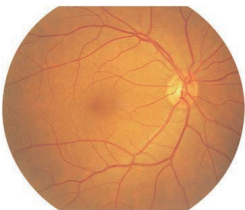
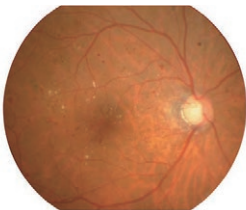
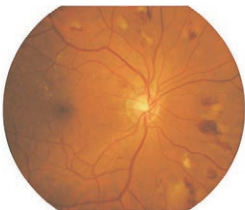
高血糖の状態が続くとどうなるの？

高血糖が続くと、網膜の血管にさまざまなダメージを引き起こします。網膜の血管が詰まったり破れたりすると、それを補おうとして新生血管（異常な形状と機能を持つもろい血管）が発生。この血管が、網膜内で成長・破裂を繰り返します。その結果、網膜の正常な機能を乱し、硝子体出血や網膜剥離などを発症させます。進行すれば、重篤な視覚障害を引き起こすリスクも潜んでいます。



どのように進行するの？

網膜には痛みを感じる神経がない上、その組織は再生されることがありません。そのため、糖尿病を発症してからの期間が重要です。長い期間、高血糖の状態が続いていると、糖尿病網膜症の重症化リスクも高まっていきます。

	病状の進行		
	単純網膜症	前増殖網膜症	増殖網膜症
正常な網膜			
			
状態	血管が傷つく	血管が詰まる	新生血管の伸長・破裂
	小さな点状の出血・ 血液成分の沈着(硬性白斑)	神経のむくみ(軟性白斑)・ 静脈の腫れ	硝子体出血・ 網膜剥離
自覚症状	なし	ほとんどなし	あり 視力の低下・視野に黒いカゲ 赤いカーテンが掛かるなど
治療法	血糖のコントロール 網膜内の血液循環を改善する薬	レーザー治療	レーザー治療 網膜硝子体手術

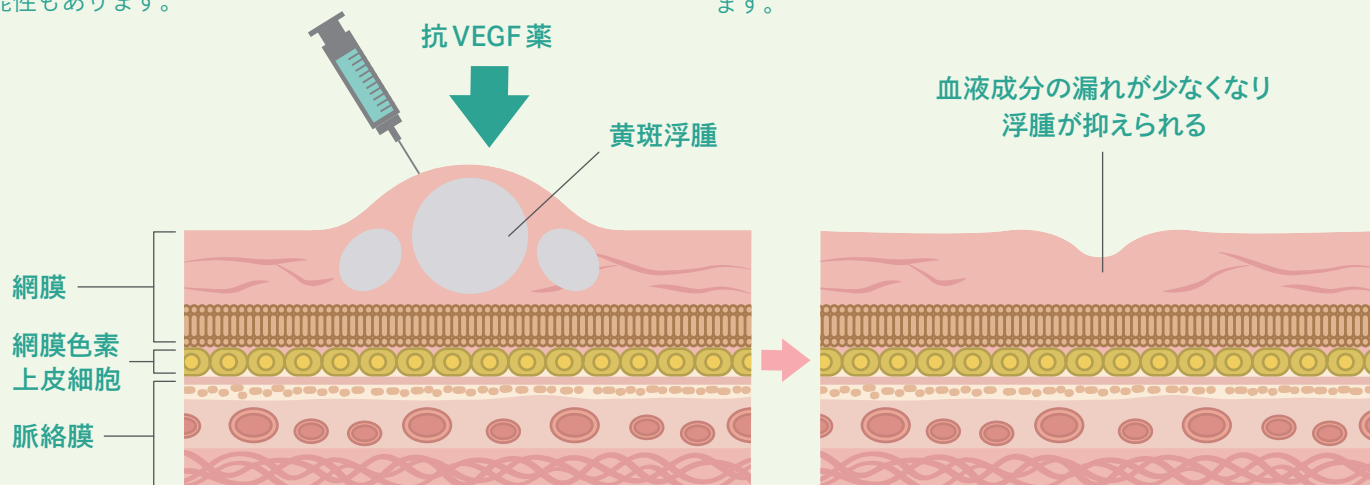
出典：日本糖尿病眼学会 HP「糖尿病眼手帳について」

どのような治療法があるの？

第一の治療法は、正しい血糖のコントロールです。その上で、糖尿病網膜症の治療は、進行の悪化を防ぐことを目的に行われます。治療法は大きく3つあります。但し、末期まで進行してしまった場合は、治療によっても視機能が回復しない可能性もあります。

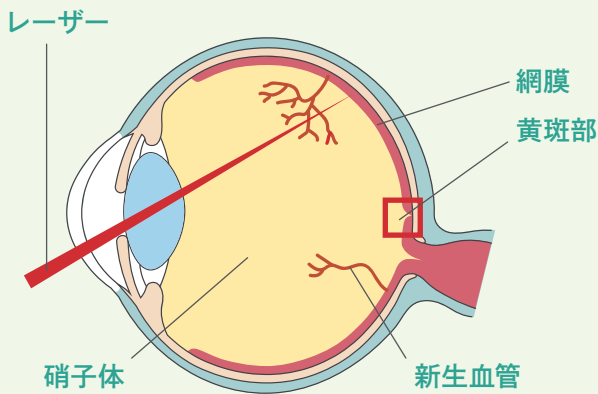
① 抗 VEGF 薬の投与

眼内に VEGF（新生血管の形成を促進するタンパク質）を阻害する薬を注射して、新生血管の透過性や増殖を抑制させる治療法です。これには黄斑部の浮腫（むくみ）を減少させる効果があります。注射の頻度や回数、使用する薬剤は、疾患の状態によって変わります。また、治療の効果は 1～2 ヶ月程度のため、再発する場合には繰り返し治療が必要になります。



② レーザー治療（網膜光凝固術）

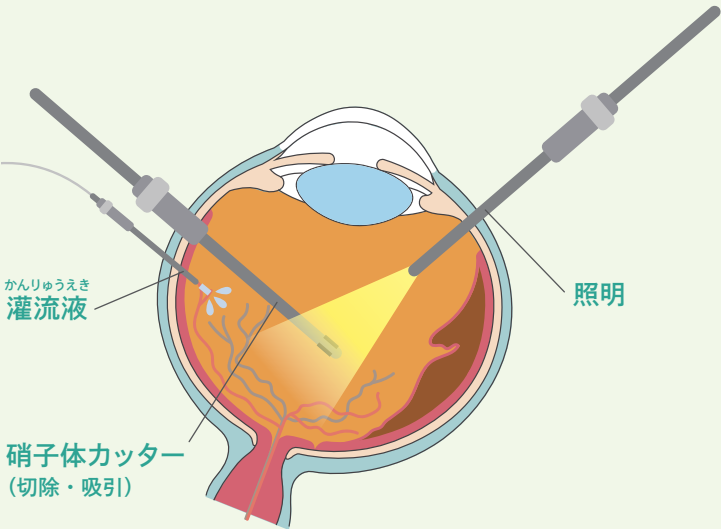
網膜にレーザー光を照射して熱を発生させ、病変部を凝固することで、新生血管の形成を阻止し、出血や網膜剥離などの合併症を予防します。増殖前網膜症や黄斑浮腫に対して効果的です。1 回の治療時間は長くても 15 分程度ですが、広い範囲に照射する場合は、一度には行わず、数回に分けて治療を行います。治療後に一時的に視力が低下することがありますが、外科手術ではないため、比較的、回復が早く、外来通院で治療が可能です。



③ 網膜硝子体手術

網膜が眼底から剥がれる網膜剥離や、新生血管が破れて硝子体内に出血を起こす硝子体出血を発症した場合は、外科手術が必要になります。主な手術法としては、以下のようなアプローチがあります。

- ・硝子体切除術（硝子体内の出血や濁りを除去）
 - ・硝子体内出血の吸引（特殊な針を使用して出血を吸引）
- 原則として、1～2 週間程度の入院が必要です。



早期発見と
定期検査がカギ

網膜硝子体疾患のスペシャリストが診察しています

網膜硝子体手術で日本トップクラスの実績を誇る
西葛西・井上眼科病院を中心に、当院グループでは
専門的な治療ができる体制を整えています

糖尿病網膜症は、緑内障、網膜色素変性に続き、中途失明が 3 番目に多い病気です。50～60 歳代の糖尿病患者の約 40% が合併、また毎年約 3,000 人の方が失明に至っていると言われています。糖尿病と言われたら、自覚症状がなくても定期検査を受け、適切な時期に治療することがとても大切です。当院グループでは、「糖尿病眼手帳」（日本糖尿病眼学会）を活用して、内科医との情報共有に取り組んでおります。



お茶の水・井上眼科クリニック	西葛西・井上眼科病院（※1）
【網膜硝子体外来】堀 貞夫 医師【当院顧問／東京女子医科大学 名誉教授】 【網膜レーザー外来】加藤 聡 医師【元・東京大学医学部 准教授】	【黄斑外来】井上 裕治 医師（※2）【帝京大学医学部 主任教授】 ※1……一般眼科外来でも診察しています ※2……お茶の水でも隔週で診察しています
大宮・井上眼科クリニック	札幌・井上眼科クリニック
【網膜硝子体外来】佐伯 忠賜朗 医師【日本大学医学部附属板橋病院】	【一般眼科外来】浦木 健彦 医師【札幌・井上眼科クリニック院長】



2023年5月に西葛西・井上眼科病院の院長に就任した溝田先生。
これまでのキャリアや、
院長としてどのような病院づくりを
目指すのかを聞きました。

溝田 淳

Atsushi Mizota

西葛西・井上眼科病院 院長

1984年千葉大学医学部卒。マイアミ大学バスクンバルマー眼研究所、帝京大学眼科学講座主任教授を経て2023年に西葛西・井上眼科病院院長就任。専門は網膜硝子体疾患、眼腫瘍。日本眼科学会 評議員、日本神経眼科学会 理事、日本眼腫瘍学会 理事。

20年以上従事している稀少がんの研究 困難こそ自分にとってプラスになる

大学病院では白内障や緑内障、網膜の手術など眼科治療全般に携わってきました。

専門的に研究してきた分野は眼腫瘍や網膜・視神経を中心とした眼疾患です。特に眼腫瘍に関しては長年、「脈絡膜悪性黒色腫」という、国内では数の少ない眼疾患の治療に関して放射線医学総合研究所(現QST病院)と共同で取り組んできました。

眼科は、視力や眼圧など検査の結果が「数値」という見える形で現れてきます。そして、見えるようになった患者さまのリアクションも分かりやすい点があります。ただ、それ故に、医師として治療の成果が求められる面もあると考えています。だからこそ、目の前の患者さまの診療に没頭することが今までできたのだと思います。

実は、眼科医になってから苦勞を感じたことは特にありません。また、大学受験、医師免許の試験よりも医師になってからの勉強量が一番多いです。医師にとって、患者さまと接して、治療することが一番の学ぶ機会だと考えています。解決するのが難しいからこそ、医師としてモチベーションを保ち、臨床に研究にと積極的に向き合ってきたのだと思います。

地域の医療機関と連携し、 患者さまが満足できる医療を提供する眼科病院に

西葛西・井上眼科病院は、専門性の高いスタッフが互いに協力しながらチーム医療を進める環境があり、非常に働きやすい印象です。また内部のリレーションがしっかりとれているので、大学病院に比

べて、治療に専念できる点は眼科病院ならではの特長だと思います。患者さまにとっては、私達の行った治療に対していかに満足していただけるかが一番大事なことであり、私達が求めるべき成果だと考えています。しっかり成果を出すためにも、患者さまとできるだけ意思疎通をはかったり、専門医を紹介したりするなど、病院としてより良い治療を提供できる体制を整えていきたいと思います。今後、高齢化社会が進む中で、複数の病院にかかる患者さまも増えることが予想され、地域の医療機関との連携が非常に重要になってきます。特に、西葛西をはじめ江戸川区周辺は医療機関の多いエリアです。眼科や他科ともうまく連携を図り、Win-Winの関係を築きながら、地域全体で最良の医療を提供できるようになることが目下の目標でもあります。

ベストを尽くし、患者さまと二人三脚で 治療に取り組んでいきたい

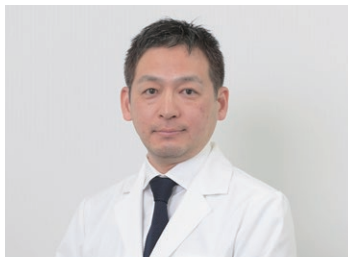
眼科の領域でも遺伝子治療やAIによる診断や治療がますます進むでしょう。ただ、最新の医療をもってしても、すべての疾患を治せるわけではありません。だからこそ、患者さまと医師が信頼関係を築き、お互いにやるべきことをしっかり行い協力し合いながら、疾患の早期発見へとつなげることが非常に重要だと感じています。私も一眼科医として、遺伝性の網膜疾患の患者さまに対して的確な治療方針やアドバイスができるように研究を続けていきたいです。そして何より、院長として、患者さま、医療スタッフの双方が満足のいく、確かな治療を行えるようベストを尽くしていきたいと思っていますので、何卒よろしくお願いいたします。

GROUP NEWS TOPIC

札幌 日帰り硝子体手術を開始

札幌・井上眼科クリニックでは、4月よりコンステレーション®ビジョンシステム（白内障と硝子体の手術を同時に行う機器）を導入し網膜硝子体手術を開始いたしました。手術は当院グループの西葛西・井上眼科病院で研鑽を積んだ浦木院長が担当いたします。

網膜硝子体に当たっては、日帰り手術、レーザー治療、硝子体注射が行える体制に拡充されました。今後も治療の幅を広げることで、地域の皆様に高度な医療を提供してまいります。

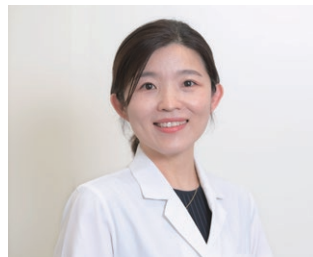


浦木院長（上左）
コンステレーション®ビジョンシステム（右）
札幌クリニックの詳細はこちら（左）

大宮 砂川副院長が白内障手術を担当

4月より井上眼科病院の砂川副院長が、大宮・井上眼科クリニックの日帰り白内障手術を担当しています。お茶の水や西葛西が遠方の患者さまも、大宮駅から徒歩3分のアクセスの良いクリニックで白内障手術を受けることができます。

手術経験が豊富な砂川副院長が執刀に当たること、グループ間の連携が強化され、難症例や入院が必要な場合もよりスムーズに対応できるようになりました。



姜院長（上左）／井上眼科病院・砂川副院長（上右）
大宮クリニックの詳細はこちら（左）

INFORMATION

グループ 雑誌『婦人画報』に天野院長の記事が掲載されました



6月1日に発刊された『婦人画報』にて、天野院長の取材記事が掲載されました。『あなたの「ドライアイ」、脂が足りないタイプかも?』と題して、ドライアイの原因と最新の治療について解説しています。

グループ 2023年度の新入職員が入職しました

2023年度、井上眼科病院グループには看護師、視能訓練士、事務など25名の新入職員が入職しました。今年度は懇親会も実施し、新しい仲間との交流を深めました。これからもチームワークを大切に、患者さまに適切な医療を提供するため、努力してまいります。



医療法人社団 済安堂

井上眼科病院グループ

INOUE EYE HOSPITAL GROUP

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 4-3
新お茶の水ビルディング 18 階

<https://www.inouye-eye.or.jp/>

井上眼科だより vol.125 | 井上眼科病院グループ広報誌 2023年7月1日発行 | 編集・発行／井上眼科病院 経営企画部 広報課

今月の表紙

お話し上手な、西葛西・井上眼科病院の溝田院長。和やかな雰囲気の中での撮影になりました。